



2022年

みやま

第285号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

(ホームページ) <http://www.hirakawa.or.jp/>



当院職員へのワクチン3回目接種の様子

3回目のワクチン接種について

院長 平川 淳一

当院は、昨年12月の最終週から、1月の始めにかけて3回目の接種を完了しました。アレルギーなどで数人は打てませんでした。ほぼ全ての職員は接種しています。副反応は、まちまちで、2回目同様だったとか、3回目も大したことはなかったという声が大半でしたが、私は3回目が一番きつかったです。接種当日の夜中に、全身の倦怠感で目が覚め、その後、のたうち回るような怠さで、助けてーと言いたくなる位でした。熱はでませんでした。2日ほど辛かったことを覚えています。しかし、3日目にはなんともなくなり、その後の抗体検査でも、3回目接種前の10倍も抗体ができていました。平川病院の職員はみんな、抗体検査を受け、ワクチンがきちんと効いていることを確認しています。抗体検査は保険適応がありませんが、病院負担でやっていますので、それぞれの職員がワクチンの必要性を理解して、接種に協力してくれています。令和4年1月に、2人だけ陽性になってしまった職員がいましたが、他の職員への広がりもなく、感染対策はうまくいっているように思います。もう少しで終わることを信じて、みんなで終息まで頑張りましょう。

【表紙】院長挨拶 【P2】病棟便り 【P3】地域生活支援室より 【P4】作業療法科から
【P5】なぜ転院しなければならないの？ 【P6】認知症疾患医療センターの動き
【P7】こころの扉 【P8】よみうりランドへ行ってきました！！

急性期病棟(南2病棟)の勉強会

南2病棟 勉強係 松下 祐樹、病棟師長 渡邊 千恵

急性期病棟の勉強会は、今年度から、阿久津先生によるコメディカル向けの勉強会を不定期で開催しております。演題はさまざまですが、普段わたしたちが行っている臨床業務、精神科医療の基礎を振り返り、より一層患者様の安全の向上、コメディカルの連携による医療の質の向上を目的としています。回を重ねる毎に、当病棟の看護師だけではなく他病棟の看護師や、検査科、薬剤科、作業療法科、栄養科、医療相談科といった他職種の皆様にもご参加して頂くようになり、参加者の皆様にはご好評いただいております。主催者としては嬉しい限りです。来年度は発表者を阿久津先生だけではなく、多職種にご協力いただき、より一層の充実した勉強会にすることも考えております。

今後も当病棟以外の皆様にもご参加しやすいよう、日程や会場などの配慮に努めてまいります。他部署の皆様も、ご興味のあるテーマがございましたら、気兼ねなくお声掛け頂けましたら幸いです。今後とも、皆様のご参加をお待ちしております。

2021年度 勉強会

時期	演題
6月 8日	リチウム中毒 早期発見と観察について
9月 9日	修正型電気けいれん療法の前処置・後処置について
12月16日	精神障害の見立て、診断のいろは
1月20日	非指定医が考える行動制限



デイケア就労準備プログラム 「変わりゆく精神障害者の働き方」

地域生活支援室より

地域生活支援科 デイケア科長 井出 学

当院デイケアで毎週開催している就労準備プログラムではよくミーティングを行います。テーマとしてよく挙がるのは「就職するなら障害者求人か一般求人か」というものです。それぞれの求人のメリット・デメリットを整理して検討していくのですが、障害者求人ですと就職するという意見が優勢です。理由としては「通院がしやすいし、服薬していても詮索されないで済む」「休憩や対人関係など配慮をしてもらえる」「障害特性に応じた業務を割り当ててもらえる」「デイケアで頑張っていることを面接でアピールできる」といった内容がよく挙げられます。障害者雇用のほうが、仕事が長続きするというデータもあります。

2017年 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センターの『障害者の就業状況等に関する調査研究』では、精神障害者の職場定着率が上昇する要因について「障害者求人により就職した場合」と「障害者雇用で定着支援を受けた場合」を挙げています。しかし最近になって、当院デイケアでは障害者雇用ではない通常の雇用で働いた方が良く、と自身の体験を元に主張するメンバーが出てきました。「障害者雇用で就職してみると配慮を期待し過ぎてしまう」「自身の障害特性を言葉にして説明することはとても難しい」「通常雇用のパートの方が今の自分の体力や精神力に合った仕事を選びやすい」というのが理由です。当院デイケアは体力増進(行軍・元気プログラム等)や自己理

解向上(当事者研究・WRAP・発達障害専門プログラム等)のためのプログラムを充実させています。その中で一定の課題を遂行した後に通常雇用で就労することを選択する人が出てきました。負荷のかかるプログラムの中で症状の変化を把握して、そのコントロールについて習得してから就職しているので、ある程度の自信をもって面接に出かけ、採用され、そして働いています。また職場のことは適宜デイケアスタッフや主治医と振り返りをするので、障害者雇用で受けられるメリットについては概ね自力でできてしまうという現象が起こってきました。まだ中長期的なデータは得られていませんが、新しい働き方への挑戦についてまた報告できればと考えています。



「動画で見る精神障がい者と家族のための市民講座」で検索をしていただくと、当院デイケアの取り組みを発表した市民講座を観ることができます。

コロナ渦による作業療法への影響

作業療法科から

作業療法科 作業療法士 岡本 晃宜

コロナウイルス流行に伴い、OTで提供しているプログラムの制限、中断、変更がありました。

【年間行事】

OTでは行事の開催日より以前に会場の装飾作りや文化祭での金銭の使用法の計画、盆踊りの練習等様々な準備をしてから当日に臨んでいました。患者様は開催前から行事を楽しみにしており、OTでの活動にも熱が入りますし、開催後もその余韻を残しながらモチベーションをその後の活動に繋げていました。しかし、入院中の患者様や、地域で生活をされている方々、私たち職員を含め毎年楽しみにしてきた文化祭、盆踊り大会がコロナウイルスの影響で中止となっています。季節感を感じることができ、地域の方々と交流できる行事が中断されてしまいました。そこで私の担当させて頂いている東館では病棟毎でバザーや夏祭り、クリスマス会を開催し、患者様の期待に応える為に日々奮闘しています。



【A2病棟プログラム】

続いてA2病棟におけるプログラムについて紹介します。

アルコール依存症者は自助グループへ参加する事で回復する可能性が高まります。また、病院を出て地域で生活をしているアルコールデイケアのメンバーによる体験談や現在の生活について話を聴く事も重要です。しかし、八王子労政会館で行われている院外AA参加やアルコールデイケアとの合同ミーティング等が中断されています。それに対し、現在はAAや断酒会のミーティングにズームで参加できるよう検討中です。また、個人情報に留意し、アルコールデイケアのミーティングを動画撮影させて頂き、入院プログラムで上映しました。コロナ渦による影響はありますが、退院後の生活を見通し、地域資源の情報を知り、経験する機会を提供する為に病棟やコメディカルと連携し、今後も精進していきます。

【OT室の利用】

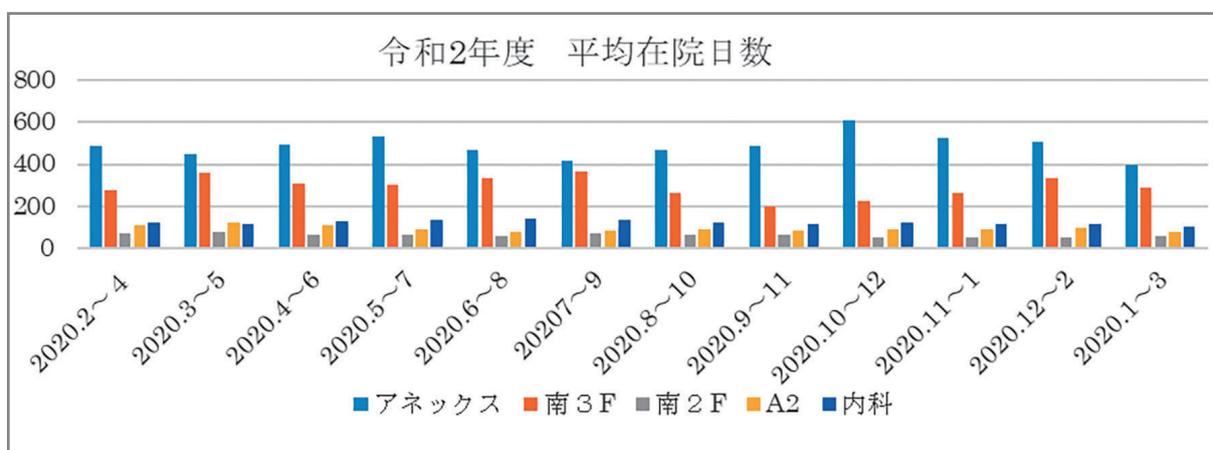
最後に、南館、東館、A2病棟で使用して賑わいを見せていたOT室も現在は東5病棟・A2病棟のみとなっており、他病棟間での患者様同士の交流は制限されています。それに伴い病棟単位のOTが主体となり、活動の幅も縮小されています。今回を機にOT室の利用方法を再検討し、患者様のニーズに沿った活動を検討中です。

なぜ転院しなければならないの？

医療の質向上促進委員会

当院の入院患者様の中には、他の医療機関から「転院」される方も多くいらっしゃいます。そのような患者様、ご家族様の中には、「最初に入院した病院でしっかりよくなるまで治療を受けたいのに…」と言われる方もいらっしゃいます。今回の委員会の記事では、患者様やご家族様に少しでも医療機関の背景を知っていただき、そのうえで上手に医療機関を利用できるよう、また、職員にもこれらの背景をより深く理解してもらい、患者様、ご家族様に寄り添った対応をする事に役立てられればと、このテーマを選びました。

転院を勧められる背景を考えるにあたり、まず、当院のいくつかの病棟の入院期間を見てみましょう。以下の表は、令和2年度の当院の入院患者様の平均在院日数です。



病院にはさまざまな施設基準があり、それにより入院期間の目安が決められます。たとえば、当院の南2F病棟は精神科急性期治療病棟という基準で、原則3か月以内で退院を目指す他、職員の配置などの条件があります。このような病院の施設基準は数多くあり、たとえば、「特定機能病院」という基準の病院では、高度医療の提供の他、人員体制、医療設備、紹介率等の基準があり、入院期間は14日以内とされています。「特定機能病院」での治療がひと段落したら患者様には速やかに次の病院に転院していただくことで、地域の病院の機能分化を図っています。このようにして多くの方が適切に医療を受けられる体制を維持するため様々な基準があります。当院も特定機能病院から転院の相談をいただきます。なかには、患者様ご本人やご家族が転院を受け止めきれず、戸惑われるケースもあります。当院としてはせっかく転院していただくなら、当院の治療や支援をより有効に生かしていただきたいという思いがあります。そのためには患者様やご家族様と転院の背景等を一緒に考え、治療の目標を共有することが大切であるとの考えから、転院決定前から電話相談や時にはご家族に直接来院していただき、相談員や医師と面接の機会をもうけさせていただくことがあります。病院の基準は外からは見えにくいですが、基準をふまえ、より適切な治療・支援になるよう、患者様やご家族様に必要な情報を提供したいと考えています。

オンラインツールを使いこなし もっとも貢献できる形を模索しています

認知症疾患医療センターの動き

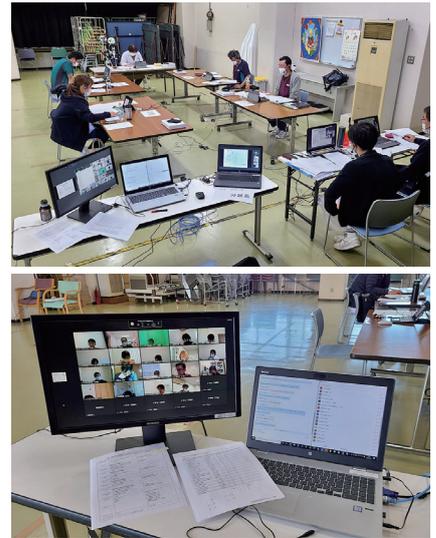
南多摩医療圏認知症疾患医療センター
事務局担当 事務部総務課 主任 杉本 貴史

当院は東京都南多摩医療圏認知症疾患医療センターの役割を担っています。コロナ禍が長期化する中においても、「適切な医療の提供」「地域連携の推進」「地域の認知症対応力向上」といった役割は変わりません。前年度比（令和2年12月末時点との比較）で見ると、鑑別診断件数は約20%増、関係者との連携件数は約30%増となっています。

連携協議会はオンライン形式で開催しています。各種研修会も、ほとんどがオンライン形式での開催となっていますが、専門職・関係者向けの研修を5件開催し、内1件は集合形式での開催も実現しました。2018年度に開始した事例検討会は、今年度もほぼ毎月開催しています。その他、年度内で残すところでは、市民向け講演会（2月）、専門職向け研修（3月）、連携協議会（3月）の開催がありますが、医師会や行政機関をはじめとした各方面の協力によって開催できている事に、改めて感謝しております。

オンラインツールについては、実践経験を重ねたことで各職員の習熟度が上がっています。「どれだけ使えるか」から「いかに使いこなすか」という段階になってきたと感じています。

認知症疾患医療センターとして、より地域に貢献できるのはどんな形か、コロナ禍終息後も見据えたツールの活用方法も模索していきます。



令和3年11月5日開催「東京都看護師認知症対応力向上研修Ⅰ」運営拠点の様子（院内）

東京都指定 認知症疾患医療センター

平川病院では、東京都の指定を受け認知症疾患医療センターを運営しています。



認知症疾患医療センター
ウェブページQRコード

地域拠点型 認知症疾患医療センター概要

- 役割
 - 二次保健医療圏の認知症医療の拠点
 - 機能
 - ◇ 認知症疾患医療・介護連携協議会の開催
 - ◇ 地域の医療従事者など向けの研修会開催
 - ◇ 受診困難者などの訪問支援をおこなう認知症アウトリーチチームの配置
- ※所在する区市町村の地域連携型の機能を兼ねる



こころの扉 その212 ～効果的なチームの条件とは？～

心理療法科 公認心理師 内田 竜人

今回の記事ではチームに関するGoogle社の研究についてご紹介したいと思います。人は、学校や仕事、治療グループ、趣味サークルなど、何かしら集団に属しながら生活しています。集団といってもいろいろな集団がありますが、同じ目標をもって共同作業する集団をチームと呼びます。チームがうまくかみ合えば一人で作業するよりもずっと効果的ですが、反対に足を引っ張りあってしまうチームもあります。この違いは一体何からくるのでしょうか？

この疑問に対して、Google社の研究チーム、プロジェクト・アリストテレスは、チームの生産性と関係のある要因は何なのか探りました。従来、優秀なチームとはメンバー個人の能力が優れていること、メンバー同士が仲良くであること（共通の趣味を持ったり、週末に遊びに行ったり等、仕事外でも交流がある）が大切ではないかと考えられていました。しかし、研究結果からはメンバー個人の能力や仲の良さはチームの生産性と関係なく、チームがどういう協力関係にあるのかが重要であることが明らかになりました。

また、プロジェクト・アリストテレスは心理的安全性というものが良い協力関係を作るために重要であると述べています。心理的安全性とは、特定の対人関係においてリスクのある行動をとっても大丈夫だと個人が感じられる程度を指します。つまり、心理的安全性が高いチームではリスクのある行動をしてもこのチームなら大丈夫だろうと感じられ、お互いに弱い部分をさらけ出すことができます。



そうしたチームは、率直に自分の過ちを認められたり、恥ずかしがらずに初歩的な質問をすることができたり、新しいアイデアを出し合えるチームであるといえます。反対に、心理的安全性の低いチームでは、自分が発言したり質問すると馬鹿にされたり非難されたり、恥をかいてしまうのではないかと感じ、自由に発言できなくなってしまうかもしれません。そうすると、当然、まとまりに欠き、チームから離脱する人は増え、生産性は低下することでしょう。

それでは、心理的安全性はどう高めていくのか？チーム全体でできることは、チームの共通目標を明確にすること、とるべき行動やルールを決めること、そして通常話しにくいような話題について話せる場をつくることが挙げられます。また、心理的安全性を高めるためにチームに属する個人ができることもあります。それは、仕事を評価対象として捉えるのではなく学びの機会と捉えるようにする、自分も他人も間違ふことがあると認める、チームに対して積極的な姿勢を示す、相手の発言や言動を受け入れる態度を示す、などが挙げられます。

よみうりランドへ行ってきました！！

12月14日、技能実習生4名、特定技能実習生2名に日本の文化に触れてもらうため、よみうりランドに行き遊園地と夜はイルミネーションを楽しんでもらいました。

参加したオウさんとトさん（栄養科勤務）に感想を聞いてみました。

「その日は2時に病院に集合して出発しました。バスの中は暑かったですが、景色がとても良くて興奮しました。期待の気持ちでよみうりランドに着きました。降りた後、目に入ったのは賑やかな人達です。私は楽しみにしていたクレイジーヒューストンに乗りました。とても刺激的でした。ジェットコースター、大観覧車、ジャンプ機などに乗りました。最後に院長先生と一緒にラーメンを食べ、ポケモンのぬいぐるみを買ってもらいとても嬉しかったです。なんて面白い日でしょう。また行きたい！！」

※本人執筆



オウ コウセイさん



ト シンキさん

「先月病院の皆さんと一緒にバスに乗ってよみうりランドに行きました。3時半ぐらいによみうりランドに着いて、遊び始めました。私は色々な乗り物に乗りました。一番印象深かったのはジェットコースターに乗った事です。とても刺激的でした。夜、院長先生とラーメンを食べました。美味しかったです。今回の遊びはとても楽しかったです。この日は絶対に忘れないです。」

※本人執筆



編集後記

水島さん（故）の代表作であるドカベン（明訓高校）は、絶対に負けなかった。私の小学校時代は、巨人V9の全盛期で、プロ野球は巨人しか優勝しないものと思っていた。当時の野球漫画は基本的に勝つ。そんな中で、イチロー、新庄、マー君も愛読したという「キャプテン」という野球漫画があります。昨年のプロ野球も最下位チーム同士の日本シリーズでした。昨年ダメでも努力次第では、今年は花を咲かせることが出来ます。キャプテンもそんな漫画です。まだ遅くない！いざスタートを切りましょう。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

